



はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和7(2025)年1月31日発行

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子・人とつながる子

心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子

学校HP



主語はだれ？

ある日校長室から廊下に出ると、後ろから小走りで私を追い抜いて職員室に入る児童を見かけました。特別教室で行う授業のためにその部屋の鍵を取りに来たのかなど、何気なく見ていました。予想通り特別教室の鍵を取って、その教室に急ぎ足で向かっていきます。私の横を「遅れた！みんなを待たせてしまった…」とつぶやきながら通り過ぎていきました。そして、階段の上から他の児童が「あー、来た来た！！」と声をかけると、鍵当番であったその子も自然と「ごめん。ごめん。お待たせ。」と返していました。日常の何気ないやり取りですが、それを見ていた私は、つい微笑んでしまいました。その何気ないやり取りに“温かみ”を感じたのです。何か事情があって鍵を取りに行くのが遅くなったのだと思いますが、鍵当番だったその子は、「みんなを待たせてしまっている。」ということをしり兼ねないと感じ、少しでも早く鍵を開けなければという思いだったのでしょう。そして、鍵を待っていた子に出会ったときに、「ごめん。ごめん。お待たせ。」という言葉は、待たせてしまったことへの謝罪の気持ちが自然と言葉として出たものであり、その子の相手を思う気持ちに温かみを感じたのでした。



前段が長くなりましたが、人間関係を上手に築いていったり、関係をよりよく保ったりするために大切な要素として、「『主語』を誰にして考えるか」ということがあると思います。いつもいつも自分を主語にして、「私は～と考えるから～する。」「私が～したいから～する。」といったように考えていると、独りよがり自分勝手な人と思われてしまい、人間関係もうまくいかないことにつながります。「自分は～だけど、他の人はどうだろう？」「自分は、この方がいいと思うけど、相手はどうか？」と、自分の意見や要望に対し、主語を置き換えて考えることによって、その人の行動は、自分ではない誰かのための行動に変わります。子どもであろうと大人であろうと、今から起こそうとする行動は、誰が「主語」になっているかを立ち止まって考えることが人間関係を構築する上で大切であることを、子どもたちに絶えず伝えていきたいと考えています。4月が来れば、新しい環境で一から人間関係を作っていかなければならない子どもたちも多くいます。環境は変わらないけれど、よりよい人間関係を再構築することを求められる子どもたちもいます。教師は、「自分がされて嫌なことは、人にはしません。」「自分がされたらどんな気持ちになるか考えてごらん。」と常に子どもたちの心に響く、分かりやすい働きかけを考えます。この「『主語』を誰にして考えるか。」という問いかけも、子どもたちに響く働きかけとして、教師の引き出しの一つにしたいと思います。

自分に関わる人を「主語」に置いて、優しい関わりや言葉がけでつなぎ、最後の「述語」は、「学校っていいな」と締めくくることができることを今後も大切にしていきたいと思います。一人一人の“思い”は目には見えませんが、きっと「主語」を意識することで“思いやり”となって目に見えるものになり、そんな思いやりに満ち溢れた素敵な学校をこれからもさらに目指してまいります。



これからますます寒さが厳しくなっていきます。感染症の流行にも十分注意が必要です。今月もどうか健康管理にご留意いただき、子どもたちが元気に学校生活を送れますよう、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

校長 亀井 敬介 教職員一同

保護者アンケートお世話になりました。

保護者アンケートでお寄せいただいたご質問やご要望について、学校としての回答集を別紙で配布しております。紙面での回答であり、十分に伝わり切らなかったり、明確にお答えできていなかったりする内容もありますが、学校としての考えをご確認いただければと思います。また、全体集約もこの紙面においてお知らせしておりますので、そちらも併せてご確認をよろしくお願いいたします。